放置竹林の解決について

佐波バンブーベースでの活動の成果

豊田 彬人（とよた あいと）
山口県立防府高等学校佐波分校 2年

宮内 寛人（みやうち ひろと）
山口県立防府高等学校佐波分校 2年

活動概要

活動の内容

私たち佐波分校は四つの班に分かれて学校の近くにある放置竹林を解決する活動をしました。それぞれの班の活動はガーデン班ではガーデンの手入れに使えるものを作る活動をして放置竹林まで行く道の竹垣づくりなどをしました。イベント班では学校や地域を盛り上げる活動をして竹を燃料にして作るバームクーヘンづくりなどをしました。竹細工班では竹から様々なものを製作して竹を使った水鉄砲づくりなどをしました。そして食班では竹を材料や道具として調理活動を行い竹を使ってご飯を炊くポンポラ飯などを作りました。

活動の特徴（新規性・発展性）

特徴は地域の環境課題に生徒が主体となって取り組むことです。この取り組みは放置竹林の問題解決を新たに学年全体で始めた活動です。この取り組みの長所は、地域の自然環境改善だけでなく、個人が課題に取り組む考え方を育み、学年全体が結束し協力する点です。学校全体として継続していることで、先輩たちとの比較ではなく、新しい学年が共通の課題に取り組みつつ、個々が地域のために何ができるかを考える環境が整っています。

活動の成果

学校として取り組んだ放置竹林の解決は、ただ単に地域の課題を解決するだけでなく、世界的な関心事であるSDGsに含まれる多くの課題にも関連することができました。特に、放置竹林の清掃を進めることで、街の景観を向上させ、住み続けられるまちづくりを作ることに貢献しました。また、これにより、新たな緑地が生まれ、土地の豊かさを維持しようとするSDGsの目標である「陸の豊かさも守ろう」にも貢献できました。

課題の設定と意図

佐波分校が取り組んだ最終的な課題は放置竹林の解消でした。この課題に取り組む際に考慮すべきポイントは多岐にわたりました。例えば、計画を実行する適切なタイミングの把握、竹林が発生しやすい場所の特定、学校単体の取り組みでは限界があるため、地域内の協力者の確保、解決のための取り組みの順序づけ、なぜ竹林が発生するのかを理解し課題の重要性を認識するための研究などが挙げられます。

この課題を選んだ理由は、まずこれまで積極的に地域課題に取り組んできた経緯や、学校周辺に実際に放置竹林が存在すること、山口県が全国的に竹林や放置竹林の面積が広いこと、そして近年の徳地地域で竹林管理が高齢化により困難になっているという状況から、学校がこの問題に取り組むことが適切だと判断しました。放置竹林の解消は地域の景観改善だけでなく、SDGsの目標にも関連し、私たちに持続可能な取り組みや地域への貢献を学ぶ機会にもなりました。この取り組みを通じて、私たちは地域課題へのアプローチ方法や協力体制の重要性を学び、持続可能な地域社会の形成に向けた一歩を踏み出すことができました。

課題解決のための仮説と計画

学年が取り組む放置竹林の解消に向け、各班はそれぞれ独自のアプローチを模索し、当初の計画を立てました。ガーデン班は竹林内でのガーデン作りや竹を活用した門や竹垣、キャラクター像などの計画を構想しましたが、多岐にわたる内容を絞り込み、門や竹垣作り、模型作りやゴミ拾いに焦点を当てて実施しました。イベント班も同様に、流しそうめん台やバス停のベンチ作り、竹炭での料理、竹を燃料としたバームクーヘン製作などを計画しましたが、大規模な企画を絞り、流しそうめんやバームクーヘンの製作に竹炭製造を組み合わせて実施しました。竹細工班は箸や竹トンボなどの計画を持ちましたが、ほかの班からの依頼もあり、竹製品を中心に作成する方針に変更しました。食班は竹パウダーを使用した料理の製作計画をたてましたが製作に時間がかかることから、竹を飯盒としてご飯を炊くポンポラ飯や、クッキーを竹製の器に入れる制作に焦点を移しました。全体を通して、初めは竹を中心据えた計画を構想していましたが、だんだんと関わる人全員がしっかり参加できて、楽しめる、そして同時に放置竹林や竹について学べるような企画を作れるように変化させていきました。また各班の考えの変化として固く難しく考えずに柔軟性を持ちつつ、しっかりと実際の竹林問題に関連し、学習と楽しさを両立させるというアプローチの仕方に焦点を置くようにしていきました。このように全体や各班が初期の計画を見直し自分たちで活動の仕方をより良い方向に変化させていくことや、実際の状況や学びの機会に合わせて活動していったことによって、多様な視点から放置竹林の問題に取り組めるようになり、また放置竹林に対して多くの解決方法を探し実際に見つけ出していくことができました。

活動で工夫できたこと

ガーデン班では竹林のゴミ拾いを行い、環境改善のためにゴミの分別に取り組みました。竹垣づくりでは竹と竹の間に紐を結びしっかり固定して倒れないよう工夫しました。キャラクターの模型作りでは班の中にそのキャラクターが好きな生徒がいたためリアルに再現することができました。イベント班の流しラーメンでは大人も子供も楽しめ、地域の親子が参加できる場を提供し、交流を促進しました。バームクーヘンづくりでは生徒が楽しめることはもちろん竹が関係するようにして、尚且つ竹を有効活用できるよう、燃料として使用した竹を消臭効果のある竹炭にして学校のトイレで使用するように工夫しました。企画時にはイベント班が多く意見を述べることで企画や実行を円滑に進めました。竹細工班の竹の皿づくりや、ポンポラ飯の飯盒づくり、流しラーメンの竹コースづくりでは最初は自分達で一からすべてをやろうとしていましたが経験の少ない生徒が多かったのでなかなかうまく進めることができませんでした。そこで地域で竹細工を作ることを仕事としておられる方々に力を貸していただき指導を受けながら学び、実践しました。竹細工班の中には器用な人が多くいたため、効率よく様々な竹細工を作ることができました。食班では他の班のフィードバックを受けながらクッキーやポンポラ飯を作り、より良いものを提供することに努めました。ポンポラ飯づくりではご飯を炊くときに入れる水の量や火加減をちょうどいいものにするように、地域の方に教わることだけでなく実際に作る生徒の感覚を大切にしました。おいしい食事をつくることや料理をすることに興味のある生徒が班の中に多くいたため楽しみつつ、みんなでアイデアを出し合い調理を行いました。

活動で得た学びや今後の展望

豊田 彬人

放置竹林を解決する活動を通じて、活動する前は竹林と聞くと美しい緑に覆われた美しい風景だけが思い浮かびました。しかし、様々な体験を通じて、竹林が美しいだけでなく、放置されてしまうことにより地域や自然に悪影響を与えることも知ることができました。
地域の方々とのかかわりでは、放置竹林の問題解決に携わる方々と連携することで、多くの人に竹林の現状や竹の活用方法を知ってもらう方法を考えることができました。また学びの中で気づいたのは、高齢化により竹林に関わる人が減っていることから、若い世代がどのように積極的に行動できるかを考えることでした。
学べたこととしては、竹林の整備方法や協力して問題を解決する重要性を学びました。自分たちの学習体験を通じて、地域とのつながりやコミュニケーションの重要性も理解できました。
今後の社会への貢献について考えると、自然に優しい行動を積み重ね、地域社会にいい影響を与えていくことが大切だと感じます。また、課題解決においては会話や感情の重要性を実感し、人との関わりを大切にしていきたいと考えます。
行動だけでなく、考え方も変えられることを学び、未来に向けて自ら行動することで自分や周りにいい影響を与えたいと思います。微力ながらも積み重ねることで大きな変化が生まれることを班ごとの行動を通じて実感しました。小さいながらも続けることで大きな成果が得られるという考え方を、自然環境の向上に向けても応用していけたらと思います。
次に、課題の解決を進める際の会話や感情から地域や地域の方とのかかわりの重要性や貴重さを実感しました。これからは、どんな相手と関わるときでも貴重な体験であるという認識を持ち続け、社会に出て仕事を持つ際も働いている地域に対する考えや共に働く、また関わる人への接し方をより深化させるよう心掛けたいと思います。人生の中での考え方や選択肢を豊富にし、様々な意見や物事への感想を持てるようになりたいと感じました。
最後に、このレポート作成を通じて他の人への質問や相手の方に興味を持つことができ、誰かと何かについて熱中できることは行動だけでなく、考えをも動かすことを実感しました。これから何かに取り組む際は、まず知ることから始め、興味を持ち、自分自身がしたいと思えるようにして熱中するまで動けるようにし、自分から動いて周りに良い影響を与えられるような人間になりたいと考えています。現在の段階で、自分自身の行動を良いものとできるように心がけ、これからも成長し続けたいと思います。

宮内 寛人

私たちは学校の近くにある放置竹林を解決するために、ガーデン班、竹細工班、イベント班、食班の四つの班に分かれて活動しました。各班がそれぞれ異なるアプローチで取り組んだ活動から、様々な学びや考えが得られました。
まず、ガーデン班では、竹林のゴミ拾いを通じて、環境を改善しました。ゴミの分別に力を入れ、竹垣づくりでは竹同士をひもで結び、安定感を確保しました。これらの活動を通じて、地域の美化だけはなく、環境への配慮も大切だと学びました。
竹細工班では、竹の皿づくりやポンポラ飯の飯盒づくり、流しラーメンの竹づくりなどに取り組みました。最初は自力で進めようとしましたが、専門家の協力を仰ぐことでより効果的な方法を学びました。また、イベント班では流しラーメンやバームクーヘンづくりを通じて、地域に交流の場を提供しました。特にバームクーヘンづくりでは、竹を燃料として使用し、」その後の竹炭をトイレに設置するなど、持続可能な活用にも取り組みました。
食班ではポンポラ飯作りを通して、水の量や火加減に気を配り、地域の方々から学ぶことだけでなく、生徒の感覚を大切にしました。これらの活動を通じ、SDGs(持続可能な開発目標)が社会と関わる上で鍵となることを理解しました。SDGsは17の目標が掲げられており我々の活動は特に「陸の豊かさを守ろう」といった目標に貢献しています。放置竹林の清掃を進め、新たな緑地を生み出し、地域の景観を向上させることで、持続可能なまちづくりに寄与しているのです。
私たちの活動を通じて、初めて放置竹林に足を運んだ際に感じたのは、ゴミが非常に多いことでした。放置竹林の全国ランキングを調べた結果、3位が大分県、2位が鹿児島県、1位が山口県であることが明らかになりました。これを受けて、私たち一人ひとりが環境への意識を高め、ゴミ拾いを通じて地域に貢献することが重要だと考えました。
ボランティア活動を通じて地域に貢献し、ゴミの分別に取り組むことも、環境を改善する一環として大切な活動です。この経験を通じて、竹林の景観向上にSDGsの理念を取り入れ、地域社会に貢献する意識を一層強くしました。今後も竹林の美化や環境保護に向けて、地域と協力し、より良い未来を築いていく覚悟を持っています。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	グループ	ブロック	中国

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立山口徳地青少年自然の家	修了日	2022/7/7	カリキュラムのタイプ	B
フィールドワークの内容					
実践活動期間	2022/12/6 ～ 2023/10/6				
活動のタイプ	新たな活動				
協力者		主な協力者	協力内容		
	所属	山口観光コンベンション協会・徳地支部	地域人材を学校と繋げる		
	氏名	池田 大乗			
	所属	株式会社 樹	竹についての講義・竹林整備の協力		
	氏名	武石 智絵			
	所属	串地区老人作業所 ゆめ工房	竹細工の指導・助言		
	氏名	岸本 正志			
協力者総数	10 名	協力団体数	団体		

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数　　全 14 日

事前:準備・打合せ	7 日	本番:メインの活動	5 日	事後:ふりかえり・報告	2 日

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
5/11 ～ 5/11	①事前学習・打合せ等	徳地地域の各事業所	各班の専門性を深めるために、4班に分かれてフィールドワークを実施した。
7/13 ～ 7/13	②実践活動本番	山口県立防府高等学校佐波分校	製作した竹筒水鉄砲を使用した競技大会。
7/14 ～ 7/14	②実践活動本番	山口県立防府高等学校佐波分校	枯竹を燃料にし、無煙炭火器を使って、バームクーヘンづくり。削減できたCO2の計算。
10/5 ～ 10/5	②実践活動本番	山口県立防府高等学校佐波分校	全長10mの竹製のコースを作成し、流しラーメンを実施した。
4/13 ～ 10/26	②実践活動本番	学校林	放置竹林の整備・開発